

参加費
無料
要申込

憎しみを越えて

元グアンタナモ収容者と考える

世界の分断と和解

2024.3.20 (水)

15:00~18:00(※予定)(開場:14:30)

会場: 軽子坂MNビル2階

(東京都新宿区揚場町2-1 株式会社TKC東京本社)

JR飯田橋駅より徒歩5分/地下鉄:有楽町線、東西線、南北線、大江戸線「飯田橋駅」B4b出口すぐ

© 2020 EROS INTERNATIONAL, PLC. ALL RIGHTS RESERVED.

2001年9月11日米国同時多発テロの後、数百人のイスラム教徒が拘束され、キューバのグアンタナモ米軍基地の収容所に送られました。米中央情報局(CIA)にテロリストの濡れ衣を着せられたモハメドゥさんもその一人です。監禁と拷問の日々は、15年続き、人権活動家たちの努力で冤罪が晴れ、解放されたのは、2016年10月でした。

「全てを許します。神がわれわれを許されますよう」。生還時の彼の第一声です。

日本にお招きすることはできませんでしたが、モハメドゥさんとの対話から、混迷が極まる世界に、どうしたら光の道筋をつけることができるのか、みなさんと一緒に考えたいと思います。多くの方々のご参加をお待ちしています。

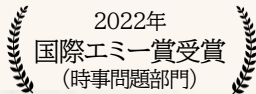
上映会 (15:10~16:00)



講演・ディスカッション (16:10~18:00)



「憎しみを越えて
-グアンタナモからの帰還-」
(原題: In Search of Monsters/
ドイツ 2021年/50分)



アルカイダの一人とされたモハメドゥ・ウルド・スラヒ。米軍のグアンタナモ収容所に収監されたが釈放後、復讐心を許しに変えて書いた本がベストセラーに。その心根に迫る。

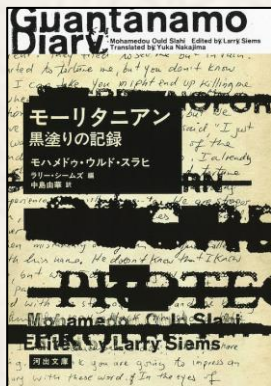
講演 モハメドゥ・ウルド・スラヒ氏 (オンライン)

質疑・ディスカッション

舟越美夏(ジャーナリスト)

綿井健陽(ジャーナリスト・映画監督)

三井潔(共同通信社編集委員)



Book

「モーリタニアン
黒塗りの記録」

河出文庫

モハメドゥ・ウルド・スラヒ著
ラリー・シームズ編
中島由華訳

2021年9月23日発売
定価:1,562円(税込)



Movie

「モーリタニアン
黒塗りの記録」

監督:ケヴィン・マクドナルド
出演:ジョディ・フォスター
ベネディクト・カンバーバッチ

2021年制作/イギリス

お問い合わせ: info@cjf.jp / 03-3472-3396 (できるだけメールでお問合せください)

主催: 一般社団法人 刑事司法未来 (Criminal Justice Future)
共催: 龍谷大学犯罪学研究センター / 科研費基盤研究B「新自由刑と無期受刑者処遇」
後援: 特定非営利活動法人 CrimeInfo / 株式会社 現代人文社 / 刑事弁護オアシス
特定非営利活動法人 刑事・少年司法研究センター (ERCJ) /
一般財団法人 イノセンス・プロジェクト・ジャパン (IPJ) (その他依頼中)

申し込み
フォーム



モハメドゥ・ウルド・スラヒ (Mohamedou Ould Slahi)

1970年モーリタニア生まれ。奨学金を得てドイツの大学に留学後、エンジニアとして働く。2001年にモーリタニアに帰国した。ところが、9.11直後、米国の要請のもとモーリタニア当局により拘束され、ヨルダンとアフガニスタンで拘禁。2002年8月5日にグアンタナモ収容所へ移送され、筆舌に尽くしがたいような拷問を受けた。2010年、米国連邦判事はスラヒを即座に釈放するよう命令した。しかし実現されたのは、6年後の2016年10月16日だった。モーリタニアに帰国した後も渡航ビザが発行されないなどの政治的弾圧を受けている。

現在はオランダのアムステルダムに在住している。2020年に引き続き、今回も日本政府は渡航ビザの発行を拒否した。

舟越美夏(ジャーナリスト)

福岡県生まれ。1989年共同通信社入社。秋田、福岡、北九州の各支社局を経て、2000年代にプノンペン、ハノイ、マニラ各支局長。2019年7月退社。著書に「人はなぜ人を殺したのか ポル・ポト派語る」(毎日新聞社、平和協働・ジャーナリスト基金奨励賞)、「愛を知ったのは処刑に駆り立てられる日々の後だった」、「その虐殺は皆で見なかったことにした」(ともに河出書房新社)など。龍谷大学犯罪学研究センター嘱託研究員。

綿井健陽(ジャーナリスト・映画監督)

大阪府生まれ。1998年からアジアプレスに参加。東ティモール独立紛争、米国同時多発テロ事件後のアフガニスタン、イラク戦争など、世界の紛争・戦争地域取材、ニューズレポートやドキュメンタリー番組を制作。イラク戦争報道で「ボーン・上田国際記者賞」特別賞、「ギャラクシー賞」報道活動部門・優秀賞など。ドキュメンタリー映画『イラク チグリに浮かぶ平和』(2014年)を撮影・監督。著書に『リトルバズ 戦火のバグダッドから』(晶文社)など。

三井潔(共同通信社編集委員)

東京都生まれ。1990年共同通信入社。社会部、外信部などをへて2011年～14年、マニラ支局長。紛争地での平和構築やテロ問題、安全保障、皇室、拉致問題を担当。主編著に「昭和天皇 最後の侍従日記」(文春新書)、「令和の胎動 天皇代替わり報道の記録」(共同通信社)など。北朝鮮による拉致被害者横田めぐみさんの母早紀江さんの軌跡を取り上げた連載企画「苦難と希望」を全国の地方紙に配信中。

開催にあたって

許しと和解～分断は、いかにして止めることができるのか？～

9.11米国同時多発テロによって世界は変わった。「テロとの戦い」の旗が立てば、国内法も、国際法も、人権も無視した国家の暴力が許されている。民主主義と全体主義、キリスト教とイスラム教、単純な二項対立で、敵と味方を分断し、その裂け目で武器商人たちが利益を貪(むさぼ)る。

モーリタニア人モハメドゥ・ウルド・スラヒは、アル・カイダの濡れ衣を着せられて、15年間、グアンタナモ米軍基地内の収容所に監禁された。多くの人の努力で彼は解放された。その第一声は「わたしは、あなたたちを許します。」だった。

被害者は加害者を非難し、加害者は加害の原因は被害者にあるという。この「復讐の連鎖」を断つ最初の言葉はこの「許し」ではないか？

わたしたちは、2020年3月、モハメドゥ氏の来日を企画した。しかし、日本政府は、ビザ(査証)の発給を拒否した。2023年5月、わたしはアムステルダムを訪れ、彼の来日の意志を確認した。彼は「ぜひ、日本の人たちと語り合いたい」と言った。紆余曲折を経て、在オランダ日本国大使館から、2024年1月18日に発行するとの連絡があった。わたしたちは歓喜した。ところが、1月17日「もう少し時間がかかる」との連絡があり、1月19日「ビザは発給しない」と一方的通告があった。

わたしたちは、予定通り3月20日に東京でセミナーを開催する。彼にはリモートで参加してもらおう。いかなる障壁も克服し、彼と日本で語り合いたいと思う。みなさん、桜の東京・飯田橋にお集まりください。

一般社団法人 刑事司法未来 代表 石塚伸一

映画「モーリタニアン」とは

悪名高きグアンタナモ収容所に収監されたモーリタニア人の青年と、彼を救うべく奔走する弁護士たちの姿を、実話を基に描いた法廷サスペンスドラマ。モハメドゥ・ウルド・スラヒの著書「グアンタナモ収容所 地獄からの手記」を題材に、「ラストキング・オブ・スコットランド」のケビン・マクドナルド監督がメガホンをとった。弁護士のナンシー・ホルンダーとテリー・ダンカンが、モーリタニア人青年モハメドゥの弁護を引き受ける。アメリカ同時多発テロに関与した疑いで逮捕された彼は、裁判すら受けられないまま、拷問と虐待が横行するキューバのグアンタナモ米軍基地で地獄の日々を送っていた。真相を明らかにするべく調査に乗り出すナンシーたちだったが、正義を追求していくうちに、恐るべき陰謀によって隠された真実が浮かび上がる。

ジョディ・フォスターが敏腕弁護士ナンシーを演じ、第78回ゴールデングローブ賞で助演女優賞を受賞。軍の弁護士ステュアート中佐をベネディクト・カンバーバッチ、モハメドゥを「預言者」のタハール・ラヒム、テリーを「ダイバージェント」シリーズのシャイリーン・ウッドリーが演じた。

2021年製作/129分/G/イギリス
(配給:キノフィルムズ/劇場公開日:2021年10月29日)

視聴可能な配信サイト ・U-NEXT/ ・Hulu/ ・Apple TV
・AMAZON プライム ビデオ